

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和4年3月25日

函館市立上湯川小学校

1 本年度の重点教育目標

気づく子（徳） 動く子（体） 比べる子（知）の育成

2 本年度の取組の重点

全校統一した指導の徹底～①学びをつくる「比べる」 ②心をつくる「気づく」 ③体をつくる「動く」  
 ④子ども一人一人の教育的ニーズや発達機会の保障  
 ⑤義務教育9年間を見据えた小中連携，地域・家庭との連携の重視  
 ⑧子どもの健康と安全の重視

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
全校統一した指導の徹底①	学びをつくる「比べる」は、子どもの姿として表れたか。	b	効果的なICTの活用や、専門性を生かした交換授業等により、個に応じた指導の充実を図る。	a	A	先生方が意欲的に取り組んでおられる。ICTの活用の充実をさらに進めてほしい。
全校統一した指導の徹底②	心をつくる「気づく」は、子どもの姿として表れたか。	b	他を気遣う気持ちや行動について考えさせる道徳教育の充実と、自己肯定感を高めさせる指導の徹底を図る。	b	B	児童に思いやる気持ちを強く持ってほしい。
全校統一した指導の徹底③	体をつくる「動く」は、子どもの姿として表れたか。	a		a	A	
④子ども一人一人の教育的ニーズや発達機会の保障	評価の二期制により、児童と向き合う時間の確保や授業改善が図られたか。	b	前例にとらわれない発想で、即時に業務改善や効率化を推進できる体制をつくり、子どもの姿で教育活動の成果と課題を共有する。	b	B	教育体制の見直しを行い、良いことは継続し、改善点はすぐに修正できる、より良い学校教育の継続を願いたい。
⑤義務教育9年間を見据えた小中連携，地域・家庭との連携の重視	異校種間，家庭や地域社会との連携・交流・協働が図られたか。	b	コロナ禍でも対応できる各種連携，活動の在り方を協議しスタンダード化することで，持続可能で効果的なコミュニティスクール，小中連携の充実を図る。	a	A	連携の具体的方策が組織的に計画，実行されつつある。
⑧子どもの健康と安全の重視	子どもの命と安全を守るための危機管理の徹底を図ることができたか。	b	感染対策等に関する危機意識と，主体的な自己管理能力を各種教科指導のみならず，学校生活全般において横断的に指導する。	b	B	感染対策の継続をお願いしたい。保護者，地域と協力した活動ができています。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり，取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが，若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが，若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。